

中国南西部に花を追う

(四川省・雲南省での青いケシ探索行)

松永秀和

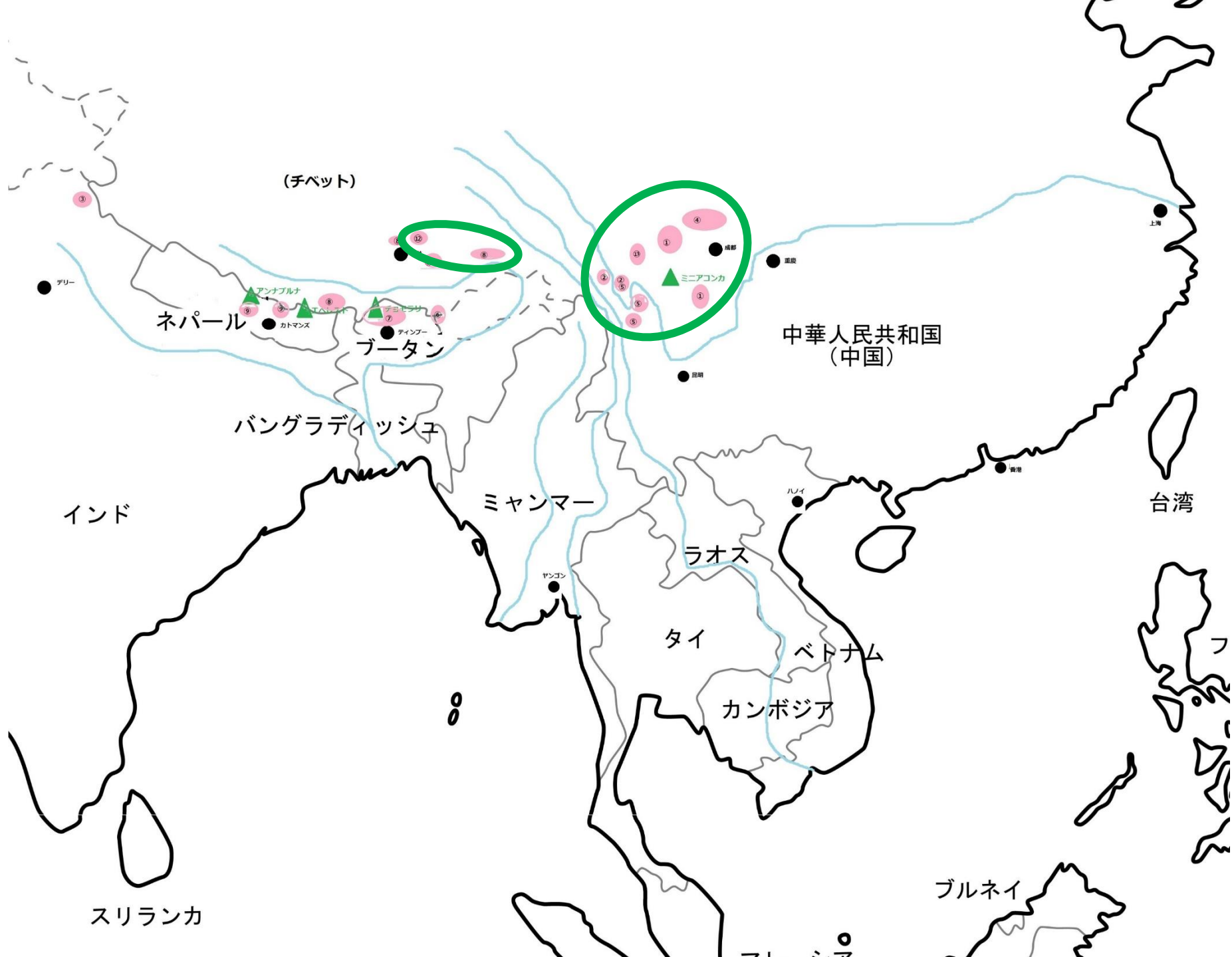
2022・11・27

©All right reserved, 2022 Hidekazu

これまでの花探索(ヒマラヤ・中国)

No	年月	期間	地域
①	2013年6月	26日	中国四川省西部(螺髻山、冶勒、折多山、羊拱山、巴朗山)(G)
②	2014年4月	9日	中国雲南省北部(徳欽、梅里雪山、香格里拉)(G)
③	2014年7月	9日	インド・ヒマチャールプラデュッシュ(サチ峠、パンギー谷)(T)
④	2015年6月	8日	中国四川省北部(九寨溝、黄龍)(T)
⑤	2015年/6~7月	13日	中国雲南省北部(玉龍雪山、住古山、老君山、石?雪山)(G/T)
⑥	2015年7月	11日	インド・アルナチャールプラデュッシュ東部(バンガジャン)(T)
⑦	2016年/6~7月	40日	ブータン北西部(ブムタン県、ハ県、チョモラリトレック)(I)
⑧	2017年6月	25日	中国チベット南東部、南部(魯朗、拉薩、甘丹寺、嘎馬溝)(I)
⑨	2017年7月	25日	ネパール中部(マルデヒマール、ガネシュヒマール)(I)
⑩	2018年6月	5日	ネパール中部(ゴサインクンド)(I)
⑪	2018年7月	25日	ネパール東部(ジャルジャレヒマール、カンチェンジュンガサーキット)(I)
⑫	2019年6月	7日	中国チベット南東部(セチ・ラ、ラサ郊外)(G)
⑬	2019年7月	6日	中国四川省西部(康定、道孚、貢?山郷)(G)
⑭	2022年6月	10日	ネパール西部(ジウムラ、シミコット)(I)
⑮	2022年7月	15日	ネパール中部(ラムジュンヒマール)(I)

(注: G-団体旅行、 T-ツアー、 I-個人旅行)



(チベット)

中華人民共和国
(中国)

台湾

日本

ブルネイ

ベトナム

タイ

ラオス

ミャンマー

バングラディッシュ

ブータン

ネパール

インド

スリランカ

上海

重慶

昆明

ハノイ

ヤンゴン

アナンプルナ

アモリタラ

ミアンコンカ

カトマンズ

ティンブ

デリー

青いケシ(メコノプシス属)とは

(定義) ケシ科の草本。ケシ属との違いは明瞭な花柱を持つこと。

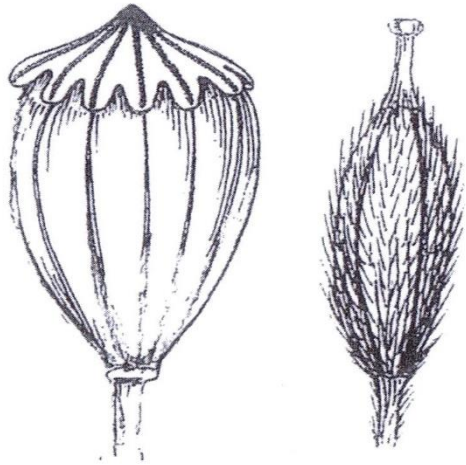


写真 富山稔

1814年 ウェールズ地方に咲いていたケシ科の花が、他のケシ科と比べて、花柱形状が異なることから、ルイ・ヴィギエがメコノプシス属を創設し、メコノプシス・カンブリカと命名。

(この間、ヒマラヤでメコノプシス属が続々と見つかる)

2014年 グレイ・ウィルソンが国際命名法の例外として、パラメコノプシス属を新設し、この花を移す。

ケシ科の花々



アザミゲシ属



ケシ属(ヒナゲシ)



ソムニフェラム種



クサノオウ属



メコノプシス属



ハナビシソウ属



ヤマブキシソウ属



オサバグサ属

タケニグサ
属などその
他16属

メコノプシス属の誕生

顕生代												原生代	太古代 (始生代)	冥王代
新生代			中生代			古生代								
第四紀	新第三紀	古第三紀	白亜紀	ジュラ紀	三疊紀	ペルム紀	石炭紀	デボン紀	シルル紀	オルドビス紀	カンブリア紀			
258万年前	2303万年前	6600万年前	1.5億年前	2億年前	2.5億年前	3億年前	3.6億年前	4.2億年前	4.4億年前	4.9億年前	5.4億年前	25億年前	40億年前	46億年前
	哺乳類繁栄 ヒト科出現	恐竜が絶滅	被子植物出現	恐竜が繁栄 鳥類の出現	恐竜出現	爬虫類出現 大量絶滅	シダ植物繁栄 昆虫類の繁栄	種子植物 動物陸上進出	サンゴ類繁栄 植物陸上進出	アンモナイト 生物大量絶滅	カンブリア大爆発 三葉虫	シアノバクテリア 真核生物		
氷河の発達と 後退	ヒマラヤ造山 運動	インド北上し アジア衝突	インドの分離	パンゲア分裂 開始		パンゲア出現								地球誕生

白亜紀前期（1億4500万年前～9900万年前）



新生代・古第三紀（6500万～2300万年前）



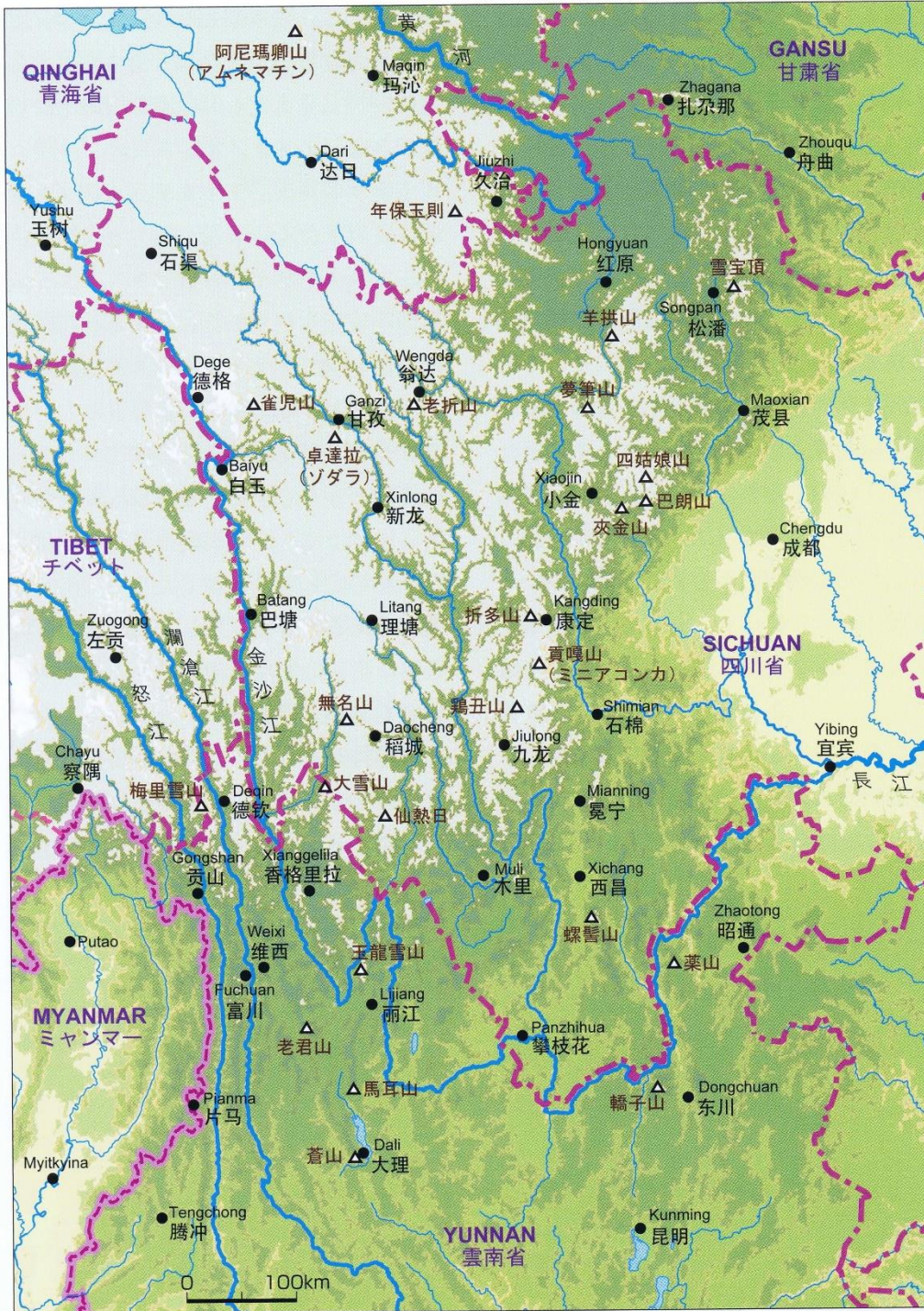
イラスト出典: 「古世界の住人 (<https://paleontology.sakura.ne.jp/>)

インド亜大陸がユーラシア大陸と衝突する以前（6600万年前）には生まれていた。氷河の発達と後退に合わせて種の進化（細分化）が進み、多様な種が生まれた。

メコノプシス属の生息地域



出典; 吉田外司夫「青いケシ大図鑑」



出典;吉田外司夫「青いケシ大図鑑」

メコノプシス属の分類

界	門	綱	目	科	属	種
	亜門	亜綱	亜目	亜科/連/亜連	亜属/節(亜節)/列(亜列)	亜種/変種(亜変種)/品種(亜品種)
植物界 Plantae	被子植物門 Magnoliophyta	双子葉植物綱 Magnolipsida	バラ目 Rosales	バラ科 Rosaceae	リンゴ属 Malus	ハナカイドウ M. halliana

亜属	節	列	種		
メコノプシス	メコノプシス		レギア スベルバ タイロリー		
		ロプスタ	チャンケリエンシス ロプスタ グラキリベス ドゥオージー		
			ポリカエティア	ナバウレンシス アウトウムナリス バニクラタ (NBT) ヴィオラケア (ミャンマー) ガネッシュエンシス ウイルソニー スタイントニー ワリキー	
	ディスコギオ			ディスキグラ ティベティカ シミコテンシス トルクアタ プータニカ ピンナティフォリア (NT)	
				グランディス	シェリフィー (BT) グランディス (NT) ベトニキフォリア バイレイ ガキディアナ インテグリフォリア リジャンゲンシス ワンバエンシス スルフレア ブセウドインテグリフォリア ユニフロラ シンブリキフォリア (NBT) ニンチエンシス ブニケア クイントゥブリネルヴィア

亜属	節	列	種		
クンミンシア	アクレアタ		ラティフォリア (I) アクレアタ (I) スベキオサ (TY)		
		ラケモサ	ホリドゥラ (NBTSQ) ルディス アトロヴィノサ ビジャンゲンシス プラインアナ メラケンシス ガオルゲイ エロンガタ カスタネア ゾンディンネンシス ラサエンシス ラケモサ ブラッティー バランゲンシス ヘテランドラ		
			ヘテランドラ	ヘテランドラ	
	バルピセタ			トリコギナ ヒスピダ バルピセタ	
				フォレスティ	フォレスティ
			ヘンリキ		ヤオシャンネンシス フォレスティ イナベルタ ランキフォリア ウェンダエンシス レビダ (G) ブルブレア ブレウロギナ アプリカ ブシロノンマ (SG) ヘンリキ ホアンロンゲンシス

亜属	節	列	種			
クンミンシア(続)	クンミンシア	クンミンシア	ブルピリフェラ リラタ (I) ウムゲンシス コンプタ ポリゴノイデス エクシリス ラムジュンゲンシス			
			シヌアタ	シヌアタ (NBT) フロリンダエ ムスコロ アルゲモナタ		
				ベラ	ヴェヌスタ ブセウドヴェヌスタ ベラ (NBT) ネグレクタ (P)	
					プリムリナ	ブルケラ プリムリナ インベディタ (TY) ルドロウィー コンキンナ デラヴァイー デラヴァイー

主な生育地 (凡例)

- 四川省(S)
- 雲南省(Y)
- チベット(T)
- ネパール(N)
- ブータン(B)
- 甘肅省(G)
- 青海省(Q)
- インド (I)
- パキスタン (P)

複数の地域に分布の場合

- (NBT) ネパール、ブータン、チベット
- (NBTS) ネパール、ブータン、チベット、四川省
- (TY) チベット、雲南省
- (SG) 四川省、甘肅省

太字の種名は今回紹介する種

90種

最初の出会い — 四川省南部



2013年6月 第1回青いケシ研究会の調査旅行

- 6月26日～27日(東京—成都—西昌)
- 6月28日～7月3日(西昌＝螺髻山—石棉へ移動)
- 7月4日～7日(石棉＝冶勒自然保護区)
- 7月8日～9日(石棉—成都、ツアー—終了、一部帰国)
- 7月10日～12日(成都—都江堰停滞—康定へ移動)
- 7月13日～14日(康定—折多山—日隆＝巴朗山)
- 7月15日～16日(日隆—夢筆山—馬児康＝羊拱山)
- 7月17日(馬児康—日隆—巴朗山—小金)
- 7月18日～19日(小金＝夾金山—折多山—康定)
- 7月20日～22日(康定—石棉—成都—東京、帰国)

螺髻山 (1)



ヤオシャンネンシス・ロウジエンシス
(*M. yaoshanensis* var. *luojiensis*)
フォレスティー列
標高: 3900m

剛毛は薄く、葉幅は狭い。

いきなり新種発見！



ヤオシャンネンシス
(*M. yaoshanensis*)
フォレスティー列
雲南省巧家県薬山
標高:3750m

剛毛は濃く、葉幅はやや広い。



螺髻山 (2)

これも新種

アトロヴィノサ
(*M. atrovinosa*)
標高: 4000m
ラケモサ列

剛毛は密、葉幅は狭い。



冶勒·则尔山(1)



ウィルソニー (*M. wilsonii*)
ポリカエティア列 標高: 3400m

たくさんの花穂をつけ、高さは2m近く
なる。



ウィルソニー・オリエンタリス
(*M. wilsonii* subsp. *orientalis*)
ポリカエティア列
雲南省禄勸県轿子山 標高:3500m



ウィルソニー・アウストラリス
(*M. wilsonii* subsp. *australis*)
ポリカエティア列
雲南省漾濞蒼山 標高:3200m



アーネストHウィルソン(1876 - 1930)



ウィルソン株

英国グロスターシャーの貧しい家庭に生まれ、植物園で働く傍ら、独学で植物学を学ぶ。その後、種苗商ヴィーチ商会に雇われ、1898年ハンカチの木の種子を採集するために、中国に派遣される。湖北省の宜昌市で採集に成功。多数の種子や球根を持ち帰る。1903年に再び中国へ行き、チベットや四川省で採集を行う。この時、M・インテグリフォリアやウィルソニーなど青いケシを採集する。1906年、ハーバード大学の援助でアジア採集旅行を行ったが、同大学アーノルド樹木園で働くため(後に園長)、米国ボストンへ移住。終生アメリカで暮らすことになる。その後も中国で採集活動を続けたほか、日本や韓国も訪れた。屋久島の屋久杉切株、ウィルソン株は彼が5度目のアジア旅行で、日本を訪れた際見たもので、1914年に記事として発表された。

冶勒·则尔山(2)



ヘテランドラ (*M. heterandra*)
ヘテランドラ列 標高: 3900m
花糸が2重になっている



プルケラ (*M. pulchella*)
プリムリナ列 標高:4300m



プルケラ・メラナンテラ
(*M. pulchella* var. *melanthera*)
四川省九龍県 標高:3550m



冶勒·则尔山(3)



カトカルティア・ケリドニフォリア (*Cathcartia chelidonifolia*) 標高: 2800m

以前はメコノプシス属であったが、2014年グレイ・ウィルソンが別属に分けた。

折多山

ヘンリキ (*M. henrici*) ヘンリキ列 標高:4200m



四姑娘山



巴朗山(1)

バランゲンシス (*M. balangensis*) ヘテランドラ列 標高:4250m



巴朗山(2)



インテグリフォリア・スーリエイ (*M. integrifolia* subsp. *souliei*)

インテグリフォリア列 標高:4400m

花は上を向く

ワンバエンシス (*M. wangbaensis*)
インテグリフォリア列
四川省九龍県 標高:3600m

花卉の縁がフリル状になる。



巴朗山(3)



プニケア (*M. punicea*)
プニケア節 標高:4450m



巴朗山(4)

プルプレア (*M. purpurea*)
フォレスティー列
標高: 4450m



写真 吉田外司夫



夾金山



バランゲンシス・アトラータ (*M. balangensis* var. *atrata*)
ヘテランドラ列 標高: 3950m

羊拱山



プレウロギナ (*M. pleurogyna*)
フォレスティ列 標高: 3900m



ウエンダエンシス (*M. wengdaensis*)
フォレスティ列
四川省翁達県老折山 標高:3950m

アプリカ (*M. aprica*)
フォレスティ列
四川省甘孜県卓達拉 標高:4600m



イナペルタ (*M. inaperta*)
フォレスティ列
四川省白玉県甘白路峠 標高: 4000m



レピダ (*M. lepida*)
フォレスティ列
甘肅省宕晶県雷古山 標高: 3500m



青いケシ、再び — 四川省北部



黃龍 五彩池



黄龍(1)

クイントゥプリネルヴィア
(*M. quintuplinervia*)
プニケア節
標高: 3550m

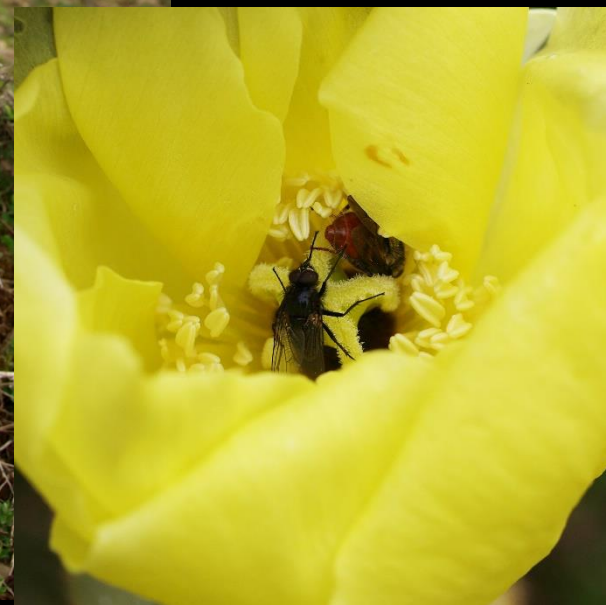
M・プニケアと容易に交雑
(M・クーケイ)する。



黄龍(2)

インテグリフォリア
(*M. integrifolia*)
標高: 4400m

花は横を向く



黄龍(3)

フアンロンゲンシス
(*M. huanglongensis*)
ヘンリキ列
標高: 4000m



黄龍(4)

プシロンマ・シノマクラタ
(*M. psilonomma* var.
sinomaculata)
ヘンリキ列
松潘県川主寺の西
標高: 3650m

M・イナペルタのように常
に花弁を閉じている。



プシロンマ (*M. psylomma*)
基準種 ヘンリキ列
甘肅省卓尼県迭山 標高:3750m



プシロンマ・カルキコラ
(*M. psylomma* var. *calcicola*)
甘肅省迭部県 標高:4050m



バルビセタ列 2018年吉田外司夫と孫航教授が創設

バルビセタ (*M. barbisetata*)
青海省久治県桑赤山峠
標高: 3950m

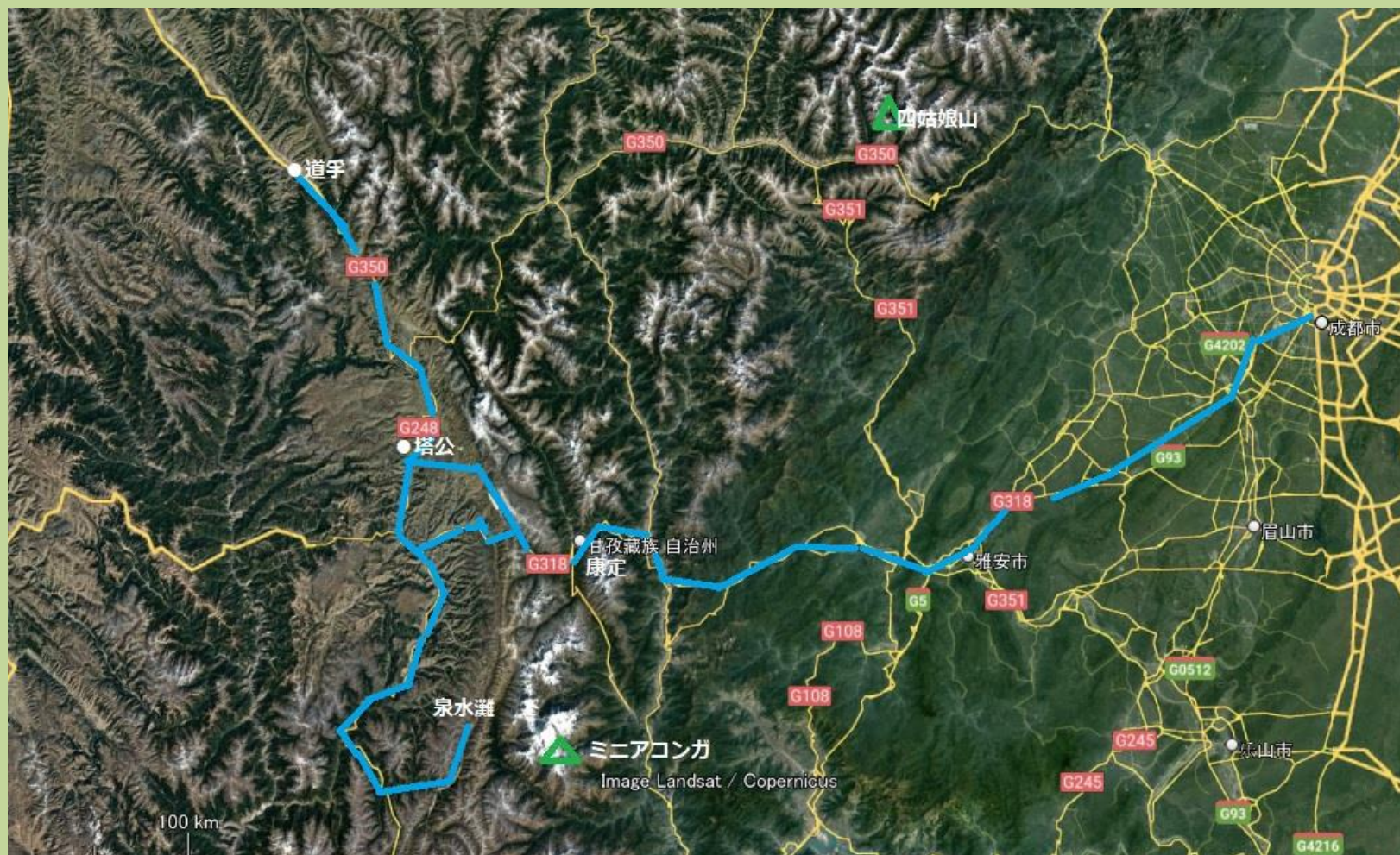


ヒスピダ (*M. hispida*)
四川省紅原県羊拱山
標高: 3850m

トリコギナ (*M. trichogyna*)
四川省徳格県海子山
標高: 4450m



三度目の四川省 — ミニアコンガの西



塔公

プラッティ (*M. prattii*)
標高: 3800m
ラケモサ列



ラケモサ (*M. racemosa*)
四川省松潘県雪山梁子 標高:3950m



常春の花の国 — 雲南省北部



玉龍雪山



玉龍雪山(1)

デラヴァイー
(*M. delavaii*)
デラヴァイー列
標高:3350m

メコノプシス属としては珍しい多年草である。



ピエール・ジャン・マリー・デラヴェ(1843 – 1895)



スイスに近いフランスオート＝サヴォワ県で生まれる。子供の頃より高山植物に親しむ。1867年から1880年の間、パリ外国宣教会から広東の東部に派遣され、陝西省の植物を栽培する。1882年に再び中国に派遣され、雲南省北東部や四川省南西部で植物採集活動を行う。1891年に帰国するまでのあいだ、彼が採取した植物は20万種におよびそのうち1500種が新種であった。この標本を分析したフランス自然史博物館のランチェは数種類の植物名にデラヴェを献名する。1893年、3度目の中国行きで採集した標本を整理中、昆明で死去。

フランス帝国主義の影響下、多くのフランス人宣教師がこの地で布教活動を行った。ラマ教による迫害や虐殺もあったが、いまでもキリスト教信者は多い。教会も残っており、庭にはフランスでは絶えた葡萄が栽培されている。



茨中教会

玉龍雪山(2)

フォレスティ
(*M. forestii*)
フォレスティ列
標高: 3700m

近くにはヒツジやヤギが
放牧されていて、先端部
分がかじられる個体が
多い。藪の中にある株が
辛うじて生き残る。



ジョージ・フォレスト(1873 – 1932)



スコットランドのフォルカークで生まれる。若い時は薬局で働き、薬用植物の知識を得る。遺産を得て、オーストラリアに渡り、金鉱を探したりした。山師的な才能を身につけたという。1902年に帰国後、釣りをしているときに石棺を見つけたことが契機となり、博物学に興味を持つ。その後、エジンバラ植物園に勤めるが、バルフォア園長の推薦で種苗商ブリー商会に雇われ、シャクナゲの種子採集のため中国に派遣される。1904年に初めて雲南省に渡り、採集を行う。その後、計7回中国へ渡り、多数の植物を採集する。この間集めた植物の種類は31,000種に上り、メコノプシス属のほか、シャクナゲ、サクラソウ、アヤマメなど30種に彼の名が付いている。

1095年のラマ教暴動も目撃しており、九死に一生を得ている。7回目の中国遠征の終わり騰衝近くで、死亡。銃の暴発とも心臓発作ともいわれる。

住古山(1)



ベヌスタ (M. venusta)
ベラ列 標高:4200m

石灰岩の山肌に長い根を伸ばして命をつなぐ。

住古山(2)

コンキンナ
(*M. concinna*)
プリムリナ列
標高: 4200m

石灰岩のガレ場の所々
にある草付きに生える。

金沙江(長江)を挟んだ
対岸の哈巴雪山にもあ
る。



住古山(3)



ルデイス (*M. rudis*) ラケモサ列 標高:4200m

世界遺產－麗江城內



老君山(1)



バイレイー (M. baileyi)

ベトニキフオリア (M. betonicifolia)
グランディス列 標高:3800m



老君山(2)

ムスキコーラ
(*M. muscicola*)
シヌアタ列
標高: 3800m

倒木や苔の多い湿った林床に生える。Musciは苔の意味。葉は浅い波状(sinuate)になる。

花観察ツアーに参加した日本人が発見した。



老君山(3)



スルフレア
(*M. surphurea*)
インテグリフォリア列
標高: 3800m



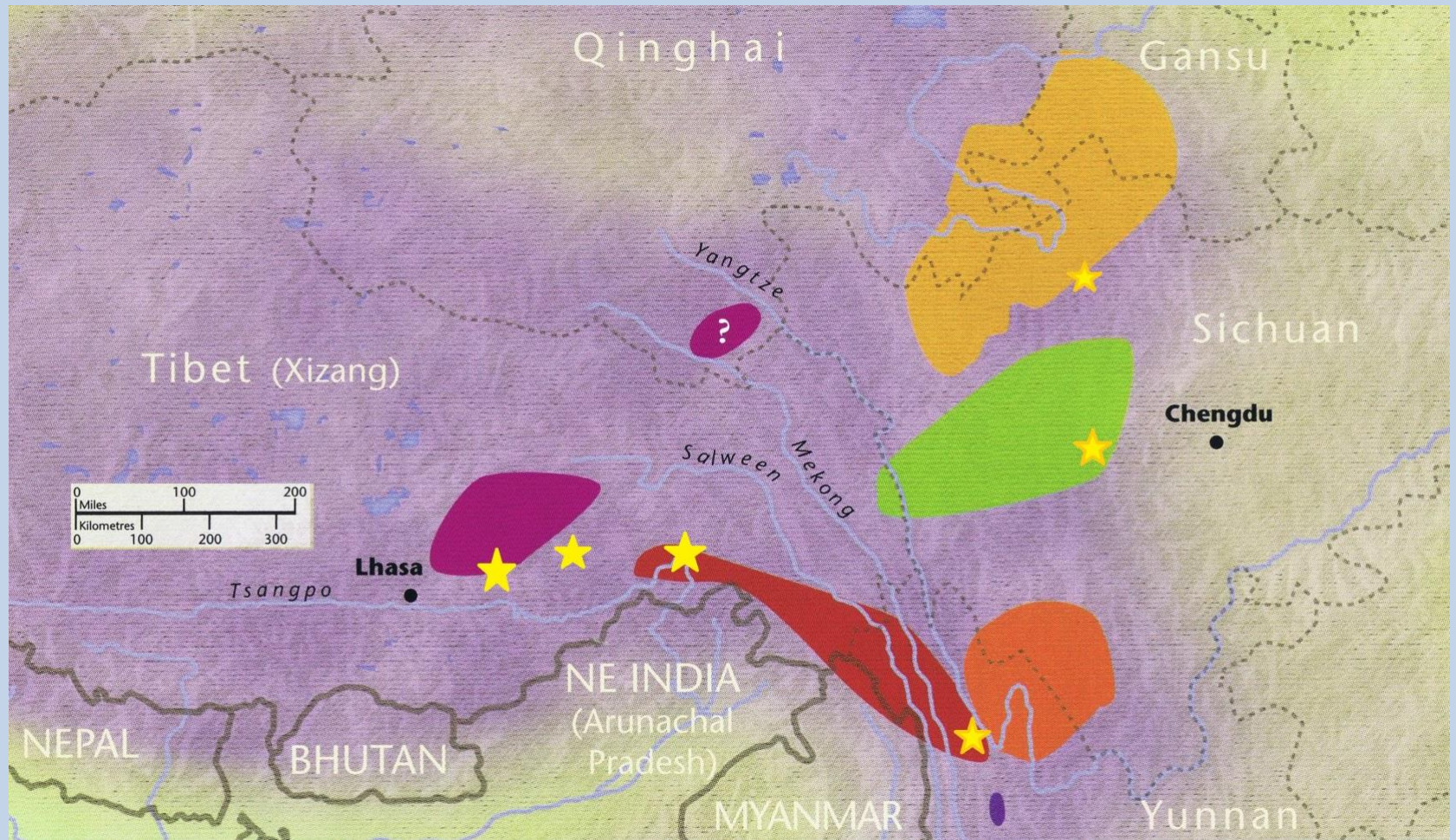
リージャンゲンシス (*M. lijiangensis*)
インテグリフォリア列
雲南省香格里拉市大雪山 標高:4300m



ユニフローラ (*M. uniflora*)
インテグリフォリア列
雲南省徳欽県白馬雪山 標高:4700m



インテグリフォリア列の分布



白馬雪山



香格里拉・納帕海



ゾンデエンエンシス
(*M. zhongdianensis*)
ラケモサ列
標高: 3300m

香格里拉の旧名、中甸
に因む。



香格里拉・石卡雪山(2)

ルデイス (*M. rudis*)
ラケモサ列
標高: 4400m

住古山で紹介した種
と同じだが、1茎に多く
の花をつけるラケモサ
列の特徴が出ている。



ビジャンゲンシス (*M. bijiangensis*)
ラケモサ列
雲南省福貢県碧羅雪山 標高: 3900m



カスターネア (*M. castanea*)
ラケモサ列
雲南省福貢県碧羅雪山 標高: 4000m



ゲオルゲイ (*M. georgei*)
ラケモサ列
雲南省福貢県碧羅雪山
標高:不明

これまで標本しかなかった幻
の青いケシ。
フォレストのファーストネーム
から名付けられた。



(北京師範大学 魏来教授が Nordic Journal of Botany 2019 に掲載した論文より)

香格里拉・石卡雪山(3)



プセウドベヌスタ (*M. pseudovenusta*)

ベラ列 標高:4300m

住古山に比べて花弁は多く、色は濃い。

香格里拉・石卡雪山(4)

ランキフォリア・シカエンシス
(*M. lancifolia* subsp. *shikaensis*)
フォレスティ列
標高: 4400m

変異の多い種で、5種の亜種がある。
本種は葉身が細いのが特徴。
吉田外司夫はそのうち、3亜種に命名を行っている。他のフォレスティ列の花についても命名種は多数ある。



ランキフォリアの仲間

ランキフォリア (*M. lancifolia*)
雲南省鶴慶県馬耳山 標高:3500m
基準亜種



ランキフォリア・エキシミア
(*M. lancifolia* subsp. *exmia*)
雲南省香格里拉市大雪山 標高:4350m

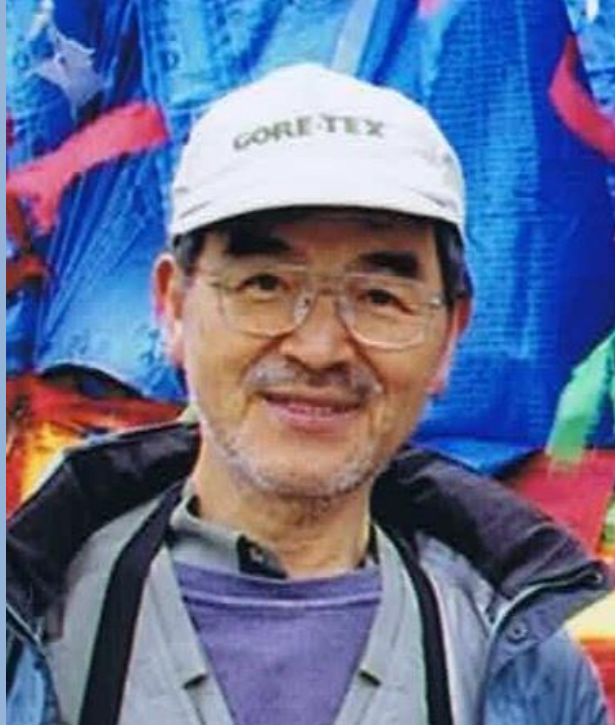


ランキフォリアの仲間(続き)

ランキフォリ・シャンチェンゲンシス
(*M.lancifolia*.subsp.*xiangchengensis*)
四川省稻城县無名山 標高:4500m



吉田外司夫(1949 – 2021)



石川県金沢市で生まれる。金沢大学法文学部に入学。経済を専攻する。卒業後は化学商社に入社するが、3年で退社し、編集プロダクションを設立。大手出版社の植物事典編集に携わる。このとき、植物学者や写真家と知り合い、植物写真家の道に入る。

1984年から約10年間毎年ネパールを訪ね、各地をトレッキングする。撮った植物の写真は山岳雑誌に掲載されたほか、写真集として出版された。1992年からは中国南西部やチベットへ撮影旅行を行う。この間、東大ヒマラヤ植物研究会に所属し、高山植物に関する論文を発表。2005年「山と溪谷社」70周年事業として「ヒマラヤ植物大図鑑」を刊行する。世界の植物学者と交流を持つ。

2012年青いケシ研究会を立ち上げる。青いケシの新種を発表。新種は24種に登る。併せて中国やブータンへ調査旅行を実施。2021年「青いケシ大図鑑」の刊行後、死去。シノ・ヒマラヤ植物の“牧野富太郎”である。

クンミンシア列

ウムンゲンシス

(*M. Wumengensis*)

雲南省禄勸県驕子山

標高: 3550m

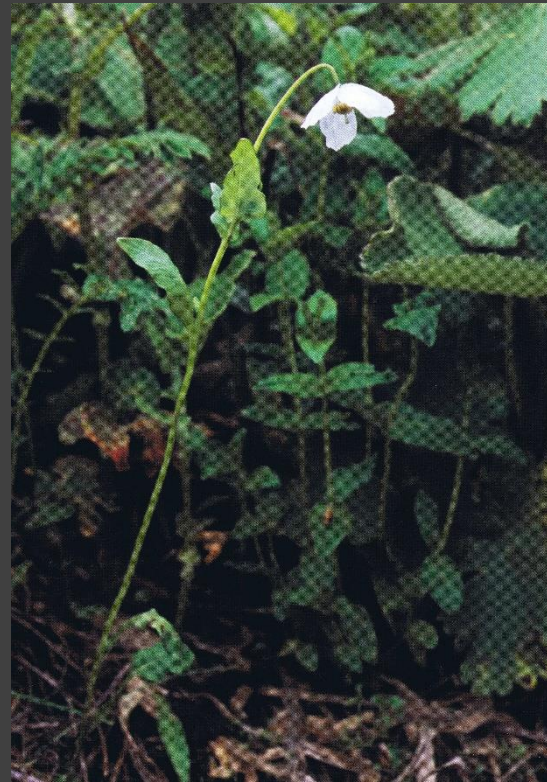
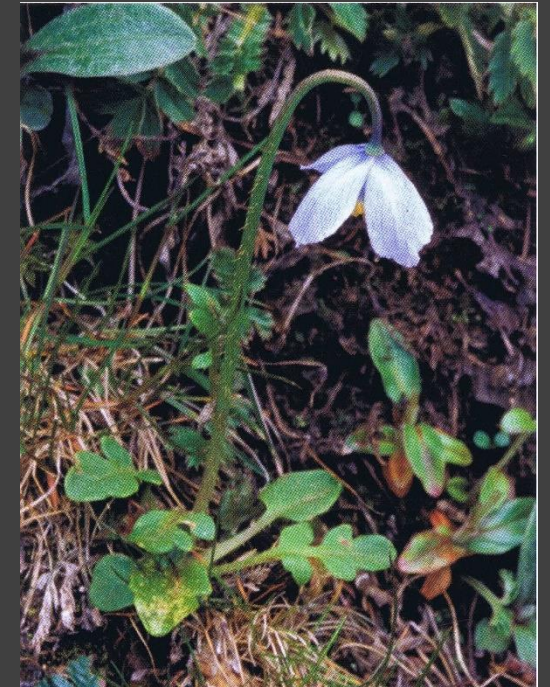


コンプタ

(*M. Wumengensis*)

雲南省貢山県梅里雪山南

標高: 3950m



エクシリス (*M. exilis*)

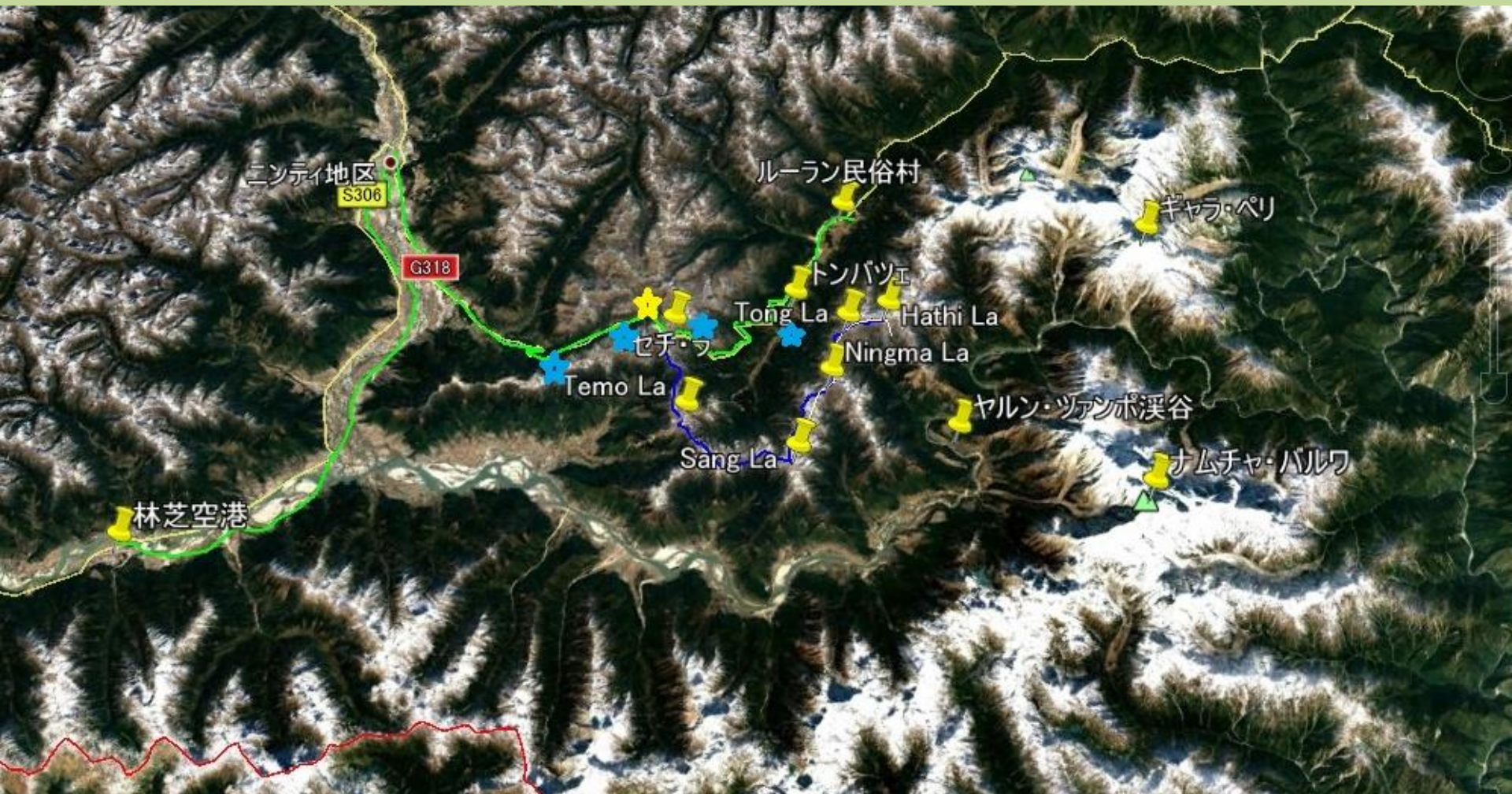
雲南省福貢県碧羅雪山

標高: 3750m

チベット、再び



セチ・ラ、ルーラン、トンバツェ



前回紹介したメコノプシス属



M・バイレイ



M・スルフレア



M・プセウドイン
テグリフォリア



M・スルフレア・グ
ラキリフォリア



M・ラサエンシス



M・チベチカ



M・ホリデュラ

前回紹介したメコノプシス属(続)



M・シンプリキ
フォリア/グラン
ドフローラ



M・グランディス



M・ガキディアナ

セチ・ラ



セチ・ラ(1)

プライニアナ
(*M. prainiana*)
ラケモサ列
標高:4600m



前回は幼生の紹介。



セチ・ラ(2)

スペキオサ・カウドリアナ
(*M. speciosa* subsp. *cawdoriana*)
アクレアタ列 標高:4600m



セチ・ラ(3)

インペディタ
(*M. impedita*)
プリムリナ列
標高:4600m



鲁朗

フロリンダエ
(*M. florindae*)
シヌアタ列
標高: 3650m

100年前、キングド
ン-ウオードが採集
して以来、サンプル
しかない幻の花
だった。
前妻の名から命名。



写真: 劉渝宏

フランク・キングドン＝ウォード(1885 – 1958)



イギリス・マンチェスターで生まれる。父親はケンブリッジ大学植物学教授。彼もケンブリッジで植物学を学んだが、父が早世したため、上海に渡り、教師になる。1910年、バルフォア教授の推薦でビーズ商会に雇われ、雲南省で植物採集を開始する。以降45年間、中国、チベット、ミャンマーでプラントハンティングに従事する。採取旅行に関する著作も多い。1924年からチベット・ツアンポー溪谷で植物採集を行う。このとき、ベイリー大尉が1912年にロン・チューで発見した青いケシを採取しその種子を英国に送る。種子はイギリスの気候とも会ってよく発芽し、英国園芸界に一大旋風を巻き起こし、青いケシブームを引き起こした。現在、英国庭園の主役となった青いケシ園芸種の多くが、このM・バイレイが親種となっている。この探索は彼の「ツアンポー溪谷の謎」に詳しい。

アルゲモナンタ
(*M. argemonantta*)
シヌアタ列
チベット降子県
標高: 3650m



写真: 劉渝宏

拉薩



拉薩郊外・林周県

トルクアタ
(*M. torquata*)
ディスコギネ亜属
標高: 5200m



ジョージ・シェリフ(1898-1967) フランク・ルドロー(1885-1972)



スコットランド・ラーバートで生まれる。王立士官学校を卒業後、第1次大戦に従軍する。その後インドへ配属され、1927年から1931年までカシュガルの副領事を務める。この時、ルドローと出会い、植物採集に従事する。1933年から1938年にかけて、2人はチベットとブータンで採集旅行を行い、多数の標本を採集。その中のGS600と呼ばれるサンプルはM・バイレイと並んで英国庭園の青いケシの親種となった。彼の名のついたM・シェルフィーはピンクの花をつける。



ロンドン・チェルシーに生まれる。ケンブリッジ大学でマーシャル・ウオードから植物学を学ぶ。カラチの大学で教授になり、第一次世界大戦ではインド軍に入隊。1927年退役後はカシミールのスリガナルに住みチベットを含むヒマラヤを旅行する。その後、チベット・拉薩の英国代表部の所長を務める(シェリフが跡を継ぐ)。このとき、ラサ周辺で探索を行いM・トルクアタを見つける。インド(アルナチャールプラディッシュ)とブータン国境付近に咲く小型の青いケシM・ルドローイは彼に献名。



ご清聴ありがとうございました

謝 辞

吉田美智子さん(故吉田外司夫夫人)

青いケシ研究会/池田博先生

富山実さん/劉渝宏さん

雲南懇話会/前田栄三さん・他

最後におねがいをひとつ

震災遺児、災害遺児、ウクライナ難民へのご支援を！



1部1,000円 全額を購入者名で
「**みちのく未来基金**」、「**あしなが育英会**」
または「**セイブ・ザ・チルドレン**」へ寄付